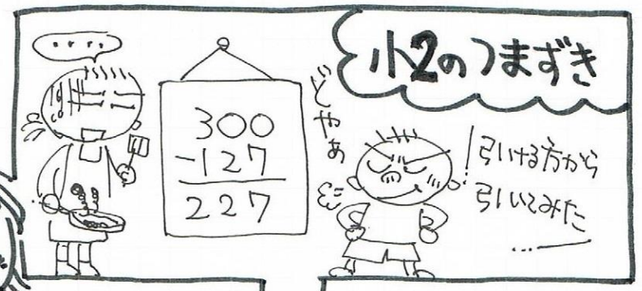
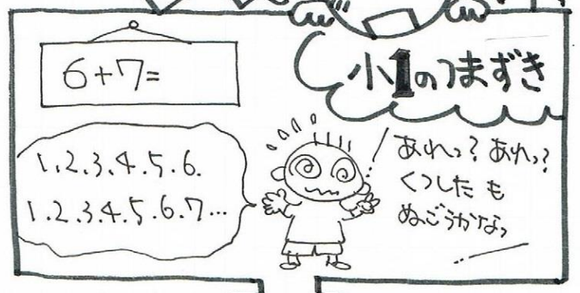
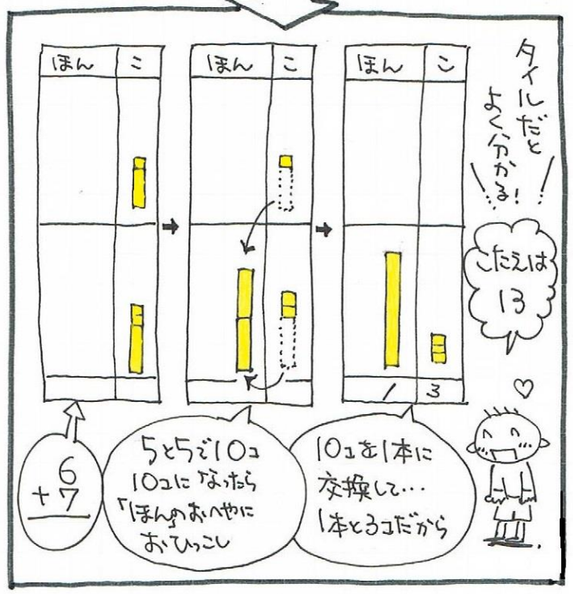


十進法の仕組みは、タイルにおまかせ！



タイルなら指を使わなくても分かるネ

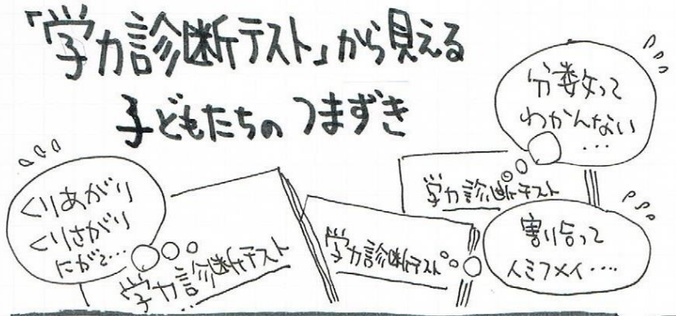


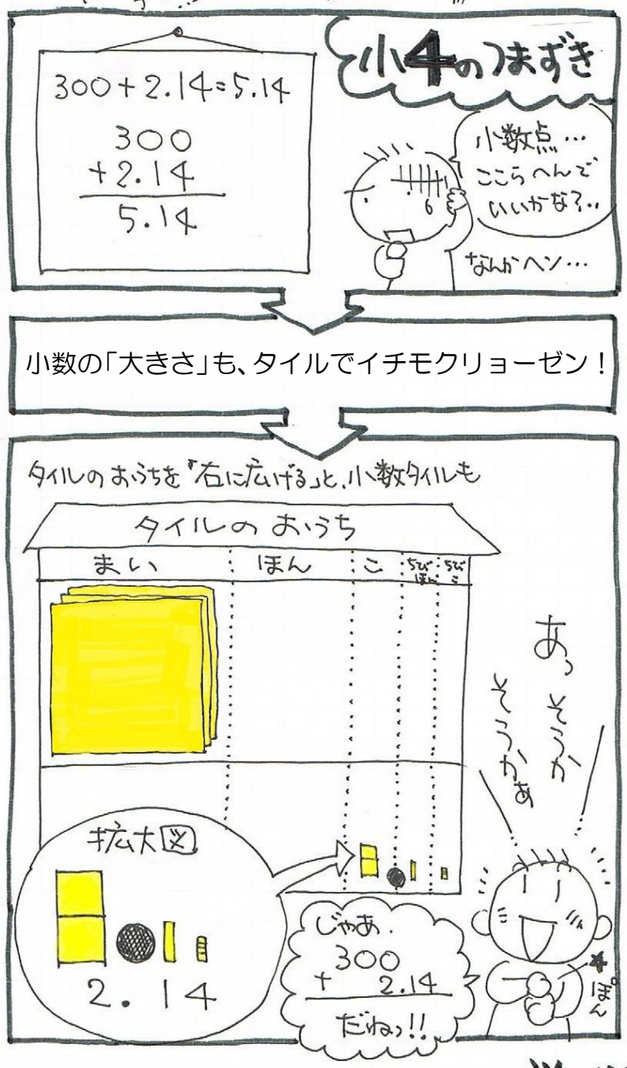
上の4つの「つまずき」は、あらわれ方こそ違いますが、原因は同じです。『「数」を単なる「記号」としか見ていない』ことです。①「数」を「量(大きさ)」を表すものとしてしっかり理解すること。②十進法の仕組みに基づいて「数」を使える（=計算できる）ようになること。この２つは小学生がぜひ身につけたい力です。

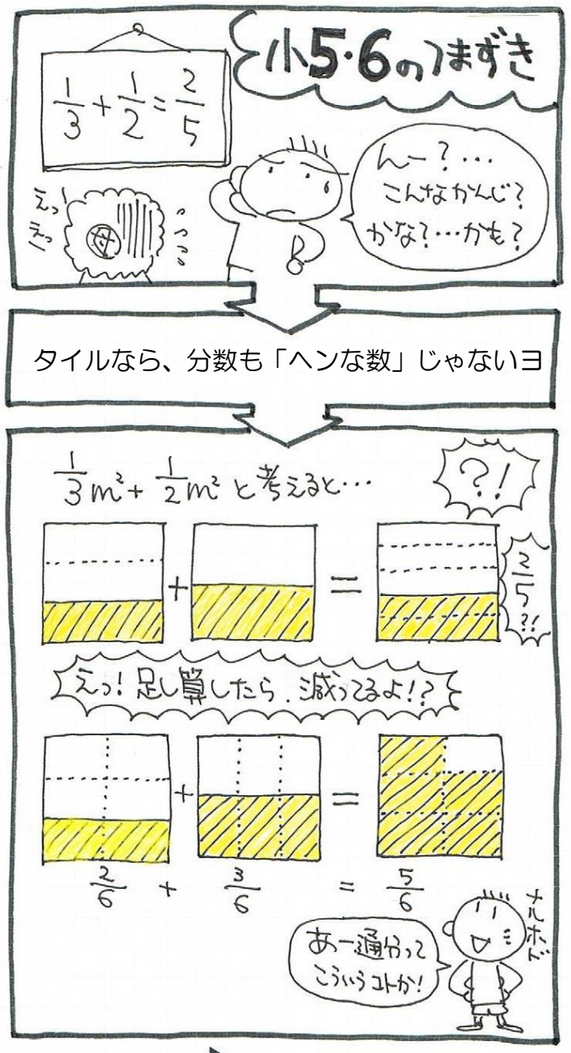
この土台があってこそ、実生活で算数が使えるようになりますし、中学からのだんだん抽象的になっていく「数学」で、分からない時に「具体的な量に基づいて考えてみる」ことができ、迷子にならないですむのです。

「学力診断テスト」から見える子どもたちのつまずき

数育会の指導者は、入会時の「学力診断テスト」に基づいて、ひとりひとりの生徒に合わせた「指導プログラム」を作ります。「学力診断テスト」は子どもたちの「つまずき」がつまった宝箱です。数育会では、こうした「つまずき」を「タイル」という教具を使って、こんなふうに指導しています







小数の「大きさ」も、タイルでイチモクリョーゼン！

タイルなら、分数も「ヘンな数」じゃないヨ

生き生きと自信をもって学ぶ子どもたちに育てたいですね！